

前号(第206号)につづき(後編)を掲載する

〈後編〉

第71回全国人権・同和教育研究大会に参加して

2日目は、自分の仕事に関係があり、和歌山でも講演をいただいた松村元樹講師の特別分科会第3講座「ネット上の差別投稿とこれからの教育・啓発」に参加することにした。

(投稿 山本敏明)

9時30分開始なので、会場(三重県総合センター)に9時についていたが、会場の前はすでに長者の列であった。長く伸びた最後尾に並んでいると、会場の直前で「ここからは座れません」と言われた。ずっと並んでいたのに座れないといわれても、思い会場のなかに入り、後ろの座席のないところに座り込んだ。松村さんの講演がはじまって20分程度度ると会場の係りから「消防法の関係で座席のないところには座らないでください」と呼びかけがあり、座り込んでいた数十人が会場の外に出ることになった。外には会場を映し出しているモニターが準備されていたので、モニター越しに講演に参加した。講演終了後、会場内に展示されていたアイヌ民族の資料をみていた。アイヌ民族の人権問題についてはそれほど知識がなく学習してこなかったこともあり、興味深くみさせてもらった。パネルに

は、アイヌ民族の歴史や文化、差別について記されていた。松阪市は人権問題啓発冊子「希望と誇りあふれるまちへ⑥アイヌ民族の歴史と現在」でくわしくアイヌ民族の歴史や文化を紹介している。ひるがえって和歌山をみたとき、アイヌ民族の問題にとりくんでいる団体(行政、市民団体など)があるのか、アイヌ民族を意識しているのだろうかと考えてしまう。しかし、日本のなかで差別されてきた、差別されていることは厳然とした事実であり、われわれも問題意識をもちつづけながらと思う。そんな和歌山の現状を考えれば、やはり三重県の人権・同和教育問題へのとりくみの熱を改めて感じられた。昨年5月24日に「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」が施行されたことも覚えておきたい。今年の全人同教の大会も

いろいろな学習をさせてもらった。部落問題はもちろんだが、水俣病問題、ネット上の差別、アイヌ民族の問題など、すぐには整理できないほどの内容であったが、なによりそこに結集する問題意識をもった全国各地の教師の熱い思いにエネルギーをもらった。人権・同和教育が全国的に下火に

なったといわれて久しいが、この大会は、今も全国の学校・地域の人権・同和教育のとりくみはおこなわれている。この大会は、その頑張っている人たちにとって学びの場であると感じた。時に連帯の場でもあると感じた。

(おわり)

前号(第206号)の「女性部一日研修」のつづきを掲載する

次に、中学校教員でもあり「日本性同一障害と共に生きる人々の会」副会長・特定非営利活動法人チーム紀伊水道理事長の倉嶋麻理奈さんより、「性の多様性を考える」ありのままの自分」で生きるために、「ありのままの自分」をつらぬくために」と題した講演

があった。セクシュアリティの多様性について、基礎知識を説明し、倉嶋さん自身の身体の性、心の性、社会的性、性的指向を話してくれた。またLGBT以外にも多くの分類があり、今はSOGIEという言葉で表すということの説明があった。そして、自分自身について、おとなしい男の子であったが、高校生頃までとくに性別に違和感を感じたことはなかった。大学生になり両親から精神的に自立することによって少しずつ違和感をもちはじめていった。そしてチーム紀伊水道の初代理事長や京都の先生たちとの出会いで自分の居場所を見つけ、職場に女性の姿で行くことにした。子どもたちの質問には本当のことを答えようとするようになった。



あいさつする松井青年部長



倉嶋麻理奈さん

2日目は、代表者から各グループ討議の報告がされた。会計年度任用制度は市町によって条件提示がさまざま、メリットもあれば人事評価の対象となるなど、デメリットもある。また、隣保館での交流事業、見守り活動という思いが伝えられた。

「人権条例と福祉のまちづくり」について小原紀史・湯浅町人権推進課課長兼同和問題相談員から、町の歴史と概略、条例制定までの経過などが報告された。宮崎茂・中央生活福祉運動部員から「会計年度任用職員制度」について問題提起し、講演の感想や地域の隣保館活動、福祉課題などを討議の柱に、9グループに分かれ意見交換し、1日目をおえた。

水平社宣言を起草した西光万吉が亡くなって50年をむかえる今年、西光万吉没後50年記念集会をひらくことが決定した(延期)。西光が和歌山に移り住んでから提唱した「不戦和栄」運動を具体化することして、今後の解放運動の展望をみいだそうとするものだ。

報告をうけた。最後に、山崎鈴子・中央福祉運動部長から「運動の基本は生活福祉・教育。生活福祉の課題は多岐にわたる。テーマ設定や内容についても議論していきたい」という、まとめと閉会あいさつをうけて、2日間の日程をおえた。

西光万吉没後50周年 実行委員会結成する



館全館を使い、講演会や展示、西光万吉抄などが準備されている。くわしくは、西光万吉顕彰会まで ☎0736-77-7880

部長は、差別は偏見の目から生まれている。自分自身も偏見の目を摘んでいかなければならないと考えさせられた。今後も学習をしていきたいと挨拶をした。隣の会議室では、女性部の一年間の活動のようすを写真展示と大阪市淀川区が作成したLGBT啓発パネルを展示した。